

報道各位

2022年10月26日
公益財団法人石橋財団 アーティゾン美術館

第59回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館展示帰国展 ダムタイプ | 2022: remap

2023年2月25日[土] - 5月14日[日]



「ダムタイプ | 2022: remap」展 キーヴィジュアル



ダムタイプ《2022》 撮影：高谷史郎
©ダムタイプ 提供：国際交流基金

公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館（館長 石橋 寛）は、「ダムタイプ | 2022: remap」を開催します。第59回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展（主催：国際交流基金）の日本館展示に選出されたのは、日本のアート・コレクティブの先駆的な存在であるダムタイプ。1984年の結成時から一貫して、身体とテクノロジーの関係を独自の方法で舞台作品やインスタレーションに織り込んできた彼女/彼らは、坂本龍一を新たなメンバーに迎え、ヴェネチアで新作《2022》を発表しました。「ポスト・トゥルース*」時代におけるコミュニケーションの方法や世界を知覚する方法について思考を促す本作を、帰国展として再構成してご紹介します。ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展は、イタリア、ヴェネチアの各所を会場とし、2年に一度開催される現代美術の国際展です。1895年から120年以上の歴史を重ね、今なお大きな影響力を持っています。公益財団法人石橋財団は、近年、ヴェネチア・ビエンナーレ日本館展示への支援を行っています。また、財団創設者である石橋正二郎が、1956年に個人として日本館の建設寄贈を行った経緯から、2014年の日本館リニューアルに際して、石橋財団は改修を提案し、工事費用を寄付しました。このようなつながりから、石橋財団アーティゾン美術館は2020年の開館を機に、ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展における日本館展示の成果を広く日本国内でもご紹介するため、帰国展を開催しています。

ポスト・トゥルース*：2016年を皮切りに膾炙した、「客観的な真実」よりも「主観的あるいは叙情的な意見」が集団的な影響力を持ちやすくなった現代の状況を指す言葉。

【本展の見どころ】

1. 新作《2022》を再構築して、《2022: remap》として日本初公開

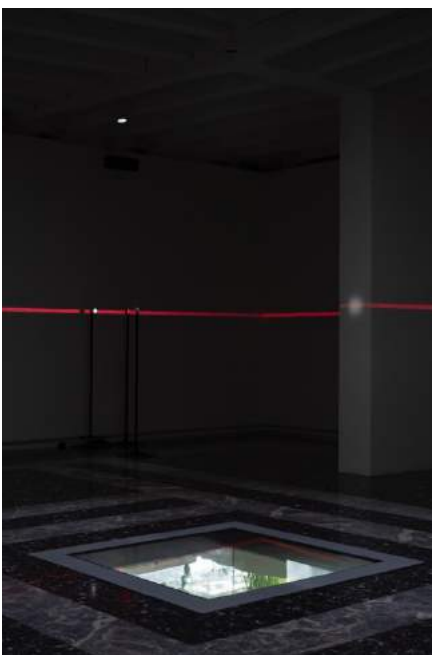
第59回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館展示で発表された新作《2022》を、単純に再現展示するのではなく、アーティゾン美術館6階展示室の空間に《2022: remap》として再配置します。ヴェネチア・ビエンナーレという各国ナショナル・パヴィリオンが立ち並ぶなかで、今日の地政学的境界、あるいは国境を越えて共通のインフラとなっているインターネット空間を基調としたコミュニケーションのあり方に問いを投げかけた《2022》を、サイト・スペシフィックに再構成し展示します。

2. 坂本龍一を迎えての新作

2000年代後半より幾度となく高谷史郎と作品を作り続けてきた坂本龍一が、初めてダムタイプメンバーとして作品の制作に関わりました。坂本が本作のために新たに制作したサウンドトラックに加え、坂本の呼びかけにより世界各地でフィールドレコーディングされた音が、ダムタイプの視覚言語を通じて、その場に立って各人が耳を澄ませることの意味、機械を通じた知覚のあり方を浮き上がらせます。また1850年代の地理の教科書から引用された普遍的な質問のテキストが、独自のレーザー装置で壁に投影されたり、坂本の友人たち（デヴィッド・シルヴィアンやカヒミ・カリィら）による朗読の音声によって周囲を取り囲み、見えるか見えないか聴こえるか聴こえないかの境界線上で表現されます。

3. これまでのダムタイプを凝縮して体感

1980年代中盤より映像、音、機械装置、空間の先進的な組み合わせによって、驚くべき速さで更新されていくテクノロジーと身体の関係に、都度鋭い問いを投げかけてきたダムタイプ。彼/彼女らのインスタレーション作品はパフォーマンス作品と連動し、《2022》も、18年ぶりの新作パフォーマンス《2020》と関係しています。かつ、本展で紹介する《2022: remap》では、過去作《Playback》で使用したターンテーブルや、《TRACE/REACT II》の表現言語が新たに交わり、それ以前のヴィジュアル/サウンド表現が組み合わせられつつも更新される、ダムタイプの創造性や関心を感じられます。



ダムタイプ《2022》 撮影：高谷史郎
©ダムタイプ 提供：国際交流基金



ダムタイプ《Playback》 撮影：高谷史郎
©ダムタイプ



ダムタイプ《Trace/React II》 撮影：福永一夫
©ダムタイプ

アーティストプロフィール

ダムタイプ

ビジュアル・アート、映像、コンピューター・プログラム、音楽、ダンス、デザインなど、様々な分野の複数のアーティストによって構成されるグループ。1984年の活動開始以来、集団による共同制作の可能性を探る独自の活動を続けてきました。特定のディレクターをおかず、プロジェクト毎に参加メンバーが変化するなど、ヒエラルキーの無いフラットでゆるやかなコラボレーションによる制作活動は、既成のジャンルにとらわれない、あらゆる表現の形態を横断するマルチメディア・アートとして内外で紹介されています。

これまでに発表した作品は、メルボルン国際芸術フェスティバル、香港藝術節、バービカン・センター（ロンドン）、新国立劇場（東京）、国際モダンダンス・フェスティバル（ソウル）、リヨン現代美術館、アテネ・コンサートホール、シンガポール芸術祭、シカゴ現代美術館、アムステルダム市立劇場など、世界中のフェスティバルや美術館で数多く上演／展示されています。2018年には、個展「DUMB TYPE ; ACTIONS + REFLECTIONS」が、ポンピドゥー・センター・メッス（フランス）で、その後2019年から2020年にかけて東京都現代美術館で開催されました。2020年3月には、新作パフォーマンス《2020》をロームシアター京都で制作。2022年5月6日から9月11日までハウス・デア・クンスト（ミュンヘン）で個展が開催されました。

プロジェクトメンバー

高谷史郎、坂本龍一、古舘健、濱哲史、白木良、南塚也、原摩利彦、泊博雅、空里香、高谷桜子

声：

David Sylvian、竹内真里亜、カヒミ・カリィ、ニキ

フィールド・レコーディング（2022年 Haus der Kunst の「ダムタイプ展」で展示された、坂本龍一ディレクションによるインスタレーション《Playback》のために録音された音源）：

YAN Jun（北京）、Crosby BOLANI（ケープタウン）、Apichatpong WEERASETHAKUL（チェンマイ）、Kali MALONE & Stephen O'MALLEY（ラ・トゥール＝ド＝ペ）、Mukul PATEL（ロンドン）、John WARWICKER（メルボルン）、Martin HERNANDEZ（メキシコシティ）、Giuseppe LA SPADA（エトナ火山）、Damian LENTINI（ミュンヘン）、Alec FELLMAN（ニューヨーク）、Andri Snær MAGNASON & Kaśka PALUCH（レイキャビク）、Jaques MORELENBAUM（リオデジャネイロ）、Atom Heart（サンティアゴ）、CHENG Chou（台北市）、Nima MASSALI（テヘラン）、オノセイゲン（東京）

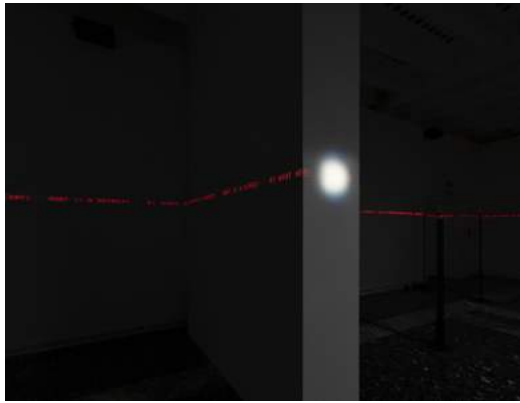
【広報用図版】



ダムタイプ《2022》 撮影：高谷史郎 ©ダムタイプ
提供：国際交流基金



ダムタイプ《2022》 撮影：高谷史郎 ©ダムタイプ
提供：国際交流基金



ダムタイプ《2022》 撮影：高谷史郎 ©ダムタイプ
提供：国際交流基金



ダムタイプ《2022》 撮影：高谷史郎 ©ダムタイプ
提供：国際交流基金



ダムタイプ《Playback》 撮影：高谷史郎 ©ダムタイプ



ダムタイプ《Trace/React II》 撮影：福永一夫 ©ダムタイプ

【開催概要】

展覧会名： 第59回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館展示帰国展 ダムタイプ | 2022: remap

主催： 公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館、独立行政法人国際交流基金

会場： アーティゾン美術館 6階展示室

会期： 2023年2月25日 [土] - 5月14日 [日]

開館時間： 10:00-18:00 (5月5日を除く金曜日は20:00まで) *入館は閉館の30分前まで

休館日： 月曜日

入館料 (税込)： 日時指定予約制 (2022年12月23日 [金] よりウェブ予約開始)

ウェブ予約チケット1,200円、当日チケット (窓口販売) 1,500円、学生無料 (要ウェブ予約)

*当日チケット (窓口販売) はウェブ予約枠に空きがある場合に販売します。

*中学生以下の方はウェブ予約不要です。

*この料金で同時開催の展覧会を全てご覧頂けます。

担当学芸員： 内海潤也、平間理香

アーティスト：ダムタイプ (プロジェクトメンバー：高谷史郎、坂本龍一、古舘健、濱哲史、白木良、南琢也、原摩利彦、泊博雅、空里香、高谷桜子)

同時開催

アートを楽しむ 一見る、感じる、学ぶ (5階展示室)

石橋財団コレクション選 特集コーナー展示 画家の手紙 (4階展示室)

アーティゾン美術館 〒104-0031 東京都中央区京橋 1-7-2

Tel: 国内 050-5541-8600 海外 047-316-2772 (ハローダイヤル) www.artizon.museum

アクセス: JR 東京駅 (八重洲中央口)、東京メトロ銀座線・京橋駅 (6 番、7 番出口)、東京メトロ銀座線 /東西線/都営浅草線・日本橋駅 (B1 出口) から徒歩 5 分

【広報用図版】

*1 点のみ掲載の場合は P.1 掲載のキービジュアルをお使いください。

*掲載時には必ずクレジットをご記載ください。また、文字載せやトリミングはご遠慮ください。

■図版は、下記サイトからダウンロードしていただけます。

広報用画像データのダウンロードはこちら

<https://www.artpr.jp/artizon/dumbtype>



本プレスリリースについてのお問合せ先

アーティゾン美術館 広報課 松浦・小川・宮武

*一般の方のお問合せ先は 050-5541-8600 (ハローダイヤル) です。

E-mail: publicity@artizon.jp

TEL: 03-6263-0132 (広報課直通・誌面への掲載はご遠慮ください。)

〒104-0031 東京都中央区京橋 1-7-2